

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスどれみ			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 10日		～	令和7年 12月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数)	18人
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 7日		～	令和8年 1月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 23日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の質と支援の一貫性 ・個別支援計画の作成・共有・計画に沿った支援はいずれも保護者評価が高い。 ・職員間での共有、振り返り体制が機能している。	チーム支援体制(朝礼・振り返り・情報共有) ・パート職員も含めた情報共有を工夫。 ・支援の属人化を防ぐ体制づくり。	個別支援の「見える化」と共有の深化 ・個別支援計画の重点目標を職員全員が即確認できる形で共有。 ・朝礼・振り返り時に「今日の支援のねらい」を一言確認する習慣化。
2	子ども理解に基づく専門性のある支援 ・「子どもを十分理解し、特性に応じた支援」への満足度が高い。 ・自己評価でもアセスメント・日々の観察を重視している点が明確。	子どもに合わせた環境調整・構造化 ・活動内容ごとに空間を分け、見通しを持たせている。 ・個別スペースの柔軟な活用。	職員の共感的支援を支える振り返りの質向上 ・振り返りで「できた支援」「子どもの変化」を必ず1つ共有。 ・否定や反省だけでなく、良い実践を言語化・蓄積する。
3	子どもの安心感・通所満足度の高さ ・「安心して通所」「楽しみにしている」「事業所の支援に満足」がほぼ満点。 ・事業所の信頼関係が確立されている。	保護者との日常的なコミュニケーション ・送迎時、面談・電話を通じた情報共有。 ・保護者の安心感につながっている。	情報共有方法の統一と多層化 ・重要事項は「口頭＋記録(連絡帳・ICT)」の併用をルール化。 ・伝達漏れが起きやすい内容(体調変化・行動面・連絡事項)を明確化。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援・保護者同士の交流の弱さ ・ペアレントトレーニング未実施。 ・保護者会・きょうだい支援の評価が低い。 ・保護者ニーズは明確だが、機会が不足。	家族支援・保護者同士の交流が十分でない ・子どもへの直接支援を最優先してきたため、家族支援の取組が後手になっていた。 ・家族支援に関する役割分担や実施方法が明確でなかった。	・家族支援の実施時期や内容を明確にする。 ・年1～2回の小規模な保護者交流会や家族参加型行事を段階的に実施する。 ・面談や通信等を活用し、ペアレント・トレーニング要素を取り入れる。
2	地域交流・地域連携の限定性 ・放課後児童クラブ・児童館との交流が少ない。 ・地域に「開かれた事業所」としての取組は発展途上。	地域交流・地域連携が限定的である ・安全面や障害特性への配慮を優先し、地域交流に慎重になっていた。 ・地域交流の目的や意義を職員間で十分に共有できていなかった。 ・交流先との関係づくりに時間や人手が必要で、計画的に進めにくかった。	・地域交流の目的を「地域の中で経験を広げる機会」として明確にする。 ・公園や地域行事への参加など、無理のない交流を継続して行う。 ・放課後児童クラブや児童館とは、見学や情報交換から段階的に連携を進める。
3	情報発信(SNS・通信)の量と見えやすさ ・活動の様子や写真の発信を求める声がある。 ・口頭連絡が伝わりきらない場面がある。	情報発信・情報共有が十分でない ・口頭での連絡が中心となり、記録や文書での共有が不足していた。 ・情報発信の方法・頻度・担当が明確ではなかった。 ・職員ごとに情報共有や記録に対する意識の差があった。	・重要な連絡事項は「口頭＋記録」を原則とする。 ・通信やICTを活用し、定期的に活動の様子を発信する。 ・情報共有の方法を職員間で確認し、対応の統一を図る。